

第 33 回木曾福島 GS カップ大会感染防止対策

スキー競技会の関係者は、全日本スキー連盟が定める『SAJ 競技会新型コロナウイルス感染予防ガイドライン（最新版）』に基づき、感染対策を遵守しなければならない。

1 大会参加者への遵守事項

大会2週間前から大会当日までに下記事項に該当する場合は、参加を見合わせるよう配慮すること。

- ① 発熱（37.5℃以上）がある。
- ② せき、のどの痛みなどの風邪の症状がある。
- ③ だるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある。
- ④ 嗅覚や味覚の異常がある。
- ⑤ 体が重く感じる、疲れやすい等の症状がある。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染者との濃厚接触歴がある。
- ⑦ 同居家族や身近な知人に新型コロナウイルス感染が疑われる方がいる。
- ⑧ 大会2週間前までに政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航歴がある、または当該在住者との濃厚接触歴がある。

2 体調管理チェックシートについて

- ① 体調管理チェックシートに大会2週間前（2月20日～3月5日）から体温、体調等について記入し、主催者の求めに応じてチェックシートを提出すること。

※ 選手・コーチ・保護者も対象とします。

- ② シートに記入いただいた内容は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、厳正なる管理のもとに保管し、参加者の健康状態の把握や連絡調整のために使用します。但し、感染者または疑いのある方が発見された場合には、必要な範囲で保健所・行政機関等に情報を提供することがありますので、予めご了承ください。

3 マスク等の着用

- ① 選手は競技中・ウォーミングアップ・クールダウン時を除いて、常時マスクを着用すること。（屋外においては防寒・暴風のためフェイスマスクやネックウォーマー等でも可。レストラン等の屋内で過ごす際にはマスク着用のこと。）

- ② ウォーミングアップ後や競技直後など、呼吸が落ち着くまではマスクを装着しなくても良いが、荒い呼吸は飛沫が多くなり感染リスクが増大するため、対人距離や咳エチケットに留意すること。
- ③ コーチ、スタート、ゴールエリアのスタッフ等選手の近くで活動する者は常時マスクを着用すること。マスクを外した選手と会話することで目の粘膜に飛沫が飛ぶ可能性を考慮し、フェイスガードやゴーグル、サングラス等も装着することが望ましい。
- ④ マスクが汚染や水濡れ等で使用できなくなることを考慮し、替えを持参すること。

4 会場内の注意事項

- ① 大声の会話や指導は避け、常に1～2mの対人距離をとって行動すること。また、歓声や大声での応援は控えること。
- ② 来場前に体調不良となった場合は、会場内に来場せず帰宅するか、判断に迷う場合は大会スタッフに申告すること。会場内で体調不良となった場合は、近くのスタッフに申告し、移動せずにその場で指示を待つこと。
- ③ 食事を摂取する際には個別に摂取すること。やむを得ない場合には1～2mの十分な距離を取り、対面しないように摂取すること。また、食事中の会話は控えるようにすること。
- ④ ごみは持ち帰ること（特に汗、鼻汁、ティッシュなどは管理に気を付けること）。
- ⑤ 競技終了後にゴールエリア等での滞留を避け、握手やハイタッチ等の接触は行わないこと。
- ⑥ 本部からの感染防止対策のアナウンスに応じなかった場合は選手、スタッフの安全確保等の観点から途中退場を求めることがあります。
- ⑦ 大会主催者・施設管理者が定めたその他の措置・指示に従うこと。

5 大会後

大会後2週間以内に体調不良となり、新型コロナウイルス感染症の疑いが生じた又は発症した場合、速やかに木曽福島スキースクール（0264-27-6023）へ連絡をすること。

6 新型コロナウイルス接触確認アプリ COCOA の導入を推奨します。